

土佐のまほろば囃子が完成 市民の前に披露される



つからの「お囃子好き」で、

「集まることが楽しくて苦労らしいものは全然感じない」と週二回練習を続け、今では快い音色を聞かせてくれるようになります。

曲は全部で【平安】【熊蜂】

【えんじゅ】【歎喜】【穂波】

の五曲で、江戸・神田囃子をベースにした南国らしい明るい

軽快なリズム。演奏する場によつて様々な組曲を作つて演

テンツク、テテツク——まほろ

ば囃子の軽快な調べが十一月十一日、商工会館に響き渡りました。

この土佐のまほろば囃子は、全

市的な文化イベントがほとんどな

い南国市に郷土芸能をつくろうと

市民が取り組んでいたものです。

昭和六十年に土佐のまほろば囃

子振興会を結成。東京都の篠笛演

奏家尾賀真次さんと鼓奏家望月

久恵さんに作曲と演奏指導を依頼

し、練習に励んできました。

最初のうちは笛の音が出なかつ

たり、音がそろわなかつたりと苦

労の連続でしたが、会員は全員根

局長の高木さんは「まほろば囃子はメンバーのものではなく、市民のものです。私たちそれを一番初めに演奏できることがたいへんうれしい。今後は南国市の文化的シンボルとして育てていきたい」と話していました。

土佐のまほろば囃子 振興会長 浜田一雄

まほろば囃子としての形ができる

突しています。

この日演奏されたのは、「序・

弥生」「元親」「黒田郡」「土佐

日記」の四曲。「今までの組曲と

違い、各曲に緩急の変化があり、

難い」と言いながらも、見事な

演奏で会場を埋めた三百人を超す

聴衆の盛んな拍手を受けていまし

ました。今後これを大きく広めて

いくためには、まず演奏者を増や

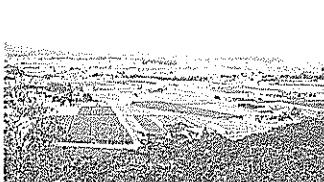
さなければなりません。現在のメ

ンバーが指導者となって各地区で

練習会を開いたり、小学校でも取

り組んでもらつたりして徐々に大きくなったらと思っています。

年越山より国分方面を



うでしょうか。京都の祇園祭りの

ように車の上で演奏するのもいい

と思います。この方法であれば演

奏者でなくても車を引っ張つたり

することができます。

来年は納涼の舟旅も行われます。舟

で国分川を下って油戸湾から大湊

までこぎ出すというのですが、

まほろば囃子が陸からこれに参加

するのもいいと思います。

このようにいろいろな機会を通じ、南国市民のまほろば囃子にしていきたいと考えています。